

中国語の「動詞 + “給”」について

小 川 郁 夫

0 序

《汉语动词—结果补语搭配词典》¹⁾は現代中国語においてどのような動詞がどのような語と結合して「動詞+結果補語」構造を形づくるかを例文を挙げて示した、外国人（中国語を母国語としない人）にとって極めて便利な実用工具書であるが、「動詞+“給”」の項には、性質の異なるものが混在していたり、結果補語として扱うべきではないものも含まれているようである。しかし、同書に「動詞+“給”」として挙げられている47例には現代中国語における「動詞+“給”」の文法的パターンがほぼ網羅されているようなので、本稿ではこれらの例文の分析を通して、「動詞+“給”」をいくつかに分類し、その文法的取扱い及び特徴について考察してゆくことにする。

《汉语动词—结果补语搭配词典》に挙げられている「動詞+“給”」は以下の47例である。

辦給, 敗給, 背給, 拔給, 補給, 傳給, 傳染給, 帶給, 倒給, 遞給, 丟給, 發給, 分給, 奉獻給, 貢獻給, 還給, 換給, 寄給, 嫁給, 獎給, 交給, 教給, 介紹給, 借給, 捐獻給, 捐贈給, 留給, 賣給, 拿給, 念給, 批給, 強加給, 切給, 讓給, 扔給, 賞給, 輸給, 說給, 推給, 推薦給, 獻給, 寫給, 印發給, 贈給, 轉嫁給, 轉交給, 做給

1 動詞+動詞——(1)

《汉语动词—结果补语搭配词典》に挙げられている47の例文のうち、以下の9例中の「動詞+“給”」にはある文法上の共通点が認められる。それは「動詞+“給”」が二重賓語（間接賓語と直接賓語）を取っているという点である。

- 【1】^(a) 这个面包太大了，我吃不了，辦给你一半好吗？（このパンは大きすぎて食べきれないから、割って半分あなたにあげようか）
- 【2】 总公司每年拨给下属几个工厂一笔款，作为新工人的培训经费。（本社は毎年下請け工場に金を支給して、新しくはいった労働者の教育費としている）
- 【3】 我喝不了这么多酒，倒给你一点好不好？（こんなにたくさんのお酒、飲みきれないので、あなたにちょっとついであげましょうか）
- 【4】 他掏出烟来递给我一支，自己也点上了一支。（彼はタバコを取り出し、私に1本よこし、自分でも1本火をつけた）
- 【5】 学校每学期都发给教师一些文具用品。（学校は学期ごとに教師に文房具を支給している）
- 【6】 昨天那场电影，我们两人的票一个楼上，一个楼下，多亏身边的那位好心人，换给我们两张楼下的票。（きのう映画を見に行った時、私たち2人の切符は1枚が2階席、もう1枚が1階席だったが、幸いにも隣にいた親切な人が1階の切符2枚に取りかえてくれた）
- 【7】 歌曲大奖赛组织委员会决定奖给获胜者每人一台电子琴。（歌謡大賞組織委員会は入賞者全員にエレクトーン1台を賞品として与える決定を下した）
- 【8】 母亲教给我许多生活知识。（母は私に生活に関する知識をいろいろと教えてくれた）

【9】 今天主人高兴，赏给用人很多东西。(今日，主人は上機嫌で召使いに多くの物をほうびとして与えた)

上例における“辦給”“拔給”“倒給”“递给”“发给”“换给”“奖给”“教给”“赏给”はすべて二重賓語を取り、「動詞＋“給”＋間接賓語＋直接賓語」という構造になっている。

【1】 辦给你一半 [面包] (あなたにパンを半分に分けてあげる)

【2】 拔给下属几个工厂一笔款 (下請け工場に金を支給する)

【3】 倒给你一点 [酒] (あなたにお酒を少しつぐ)

【4】 递给我一支 [烟] (私にタバコを1本渡す)

【5】 发给教师一些文具用品 (教師に文房具を支給する)

【6】 换给我们两张楼下的票 (切符を交換して私たちに1階席の切符2枚をくれる)

【7】 奖给获胜者每人一台电子琴 (入賞者全員にエレクトーン1台を賞品として与える)

【8】 教给我许多生活知识 (私に生活に関する知識をいろいろと教えてくれる)

【9】 赏给用人很多东西 (召使いに多くの物をほうびとして与える)

“給”は「与える」という意味で独立した1つの動詞として使うことができるが、その文法的特徴の1つは二重賓語を取り、「“給”＋間接賓語＋直接賓語」という構造を形づくることのできるという点にある。

〔10〕 给他一本书 (彼に本を1冊あげる)

上例【1】～【9】の“給”は「与える」という本来の意味を持っている。「動詞＋“給”」の「動詞」で表わされている動作行為の結果、直接賓語で表わされている物(“一半 [面包]” “一笔款”など)は間接賓語で表わされている人または機関(“你” “下屬几个工厂”など)に「授与」される。【1】～【9】の「動詞＋“給”」が二重賓語を取っているのは“給”の動詞性によるものであろう。しかし、この“給”を独立した1つの動詞とみなし、「動詞＋“給”＋間接賓語＋直接賓語」をいわゆる

連動式として次のように I C 分析するのは妥当ではない。

*動詞+“給”+間接賓語+直接賓語→動詞/“給”+間接賓語+直接賓語

なぜなら、【1】～【9】の「動詞+“給”」中の「動詞」は次のように直接賓語と密接な関係を有しているからである。

- 【1】 掰一半 [面包]⁽³⁾(パンを半分に割る)
- 【2】 拨一笔款(金を支給する)
- 【3】 倒一点 [酒](酒を少しつぐ)
- 【4】 递一支 [烟](タバコを1本渡す)
- 【5】 发一些文具用品(文房具を支給する)
- 【6】 换两张楼下的票⁽⁴⁾(1階席の切符2枚に交換する)
- 【7】 奖一台电子琴(エレクトーン1台を賞品として与える)
- 【8】 教许多生活知识(生活に関する知識をいろいろと教える)
- 【9】 赏很多东西(多くの物をほうびとして与える)

従って、これらの「動詞+“給”」は1つの複合動詞と考えるのが妥当である。この場合、“給”は動詞と見なしてよかろう。上挙の“掰给”“拨给”“倒给”“递给”“发给”“换给”“奖给”“教给”“赏给”はすべて「動詞+動詞」という語構成からなる複合動詞である。また、「動詞+“給”+間接賓語+直接賓語」の文法構造は、「“給”+間接賓語+直接賓語」が、

“給”+間接賓語+直接賓語→“給”+間接賓語/直接賓語

例 给你一本书→给你/一本书

と I C 分析される⁽⁵⁾ように、

動詞+“給”+間接賓語+直接賓語→動詞+“給”+間接賓語/直接賓語

例 掰给你一半→掰给你/一半

拨给下属几个工厂一笔款→拨给下属几个工厂/一笔款

と分析するのが妥当である⁽⁶⁾。

2 動詞＋動詞——(2)

以下の24の例文は、「動詞＋“給”」が二重賓語を取っていないが、実は二重賓語を取りうるものである。

- 【11】 这是我爸爸托人带给我的家乡特产，你们大家都尝尝吧！（これは父が人に頼んで届けてよこした郷里の特産品です，みなさん食べて下さい）
- 【12】 我前几天寄给你的信，你收到了吗？（数日前あなたに送った手紙，もう届きましたか）
- 【13】 你借给我的那本书，明天还你行吗？（あなたが貸してくれたあの本，明日返せばいいですか）
- 【14】 她在写给我的那封信中，提到了去国外讲学的事。（彼女は私にくれたあの手紙の中で外国へ行って講演することについて触れた）
- 【15】 这个书包是他让我交给你的。（このカバンは彼があなたに渡すようにと私にことづけたものです）
- 【16】 这本书是他让我转交给你的。（この本は彼があなたに渡すようにと私にことづけたものです）
- 【17】 桌子上的这几个苹果是留给你吃的。（机の上のりんごはあなたに食べてもらおうと思って残しておいたものです）
- 【18】 那笔款是批给我们扩建厂房用的。（あのお金は私たちに工場拡張用にと許可して与えられたものだ）
- 【19】 你放心，补发给你的工资到时候会补给你的。（ご安心下さい，給料の追加支給分はいずれ必ず支払われます）
- 【20】 这部大型歌剧五月底彩排，六月初将奉献给首都的广大观众。（この長編オペラは5月末にラストリハーサルが行なわれ，6月初めに首都の大観衆に捧げられるであろう）
- 【21】 这本书借我看看，三天之内一定还给你！（この本，私に貸して

下さい、3日以内に必ずお返しますから)

- 【22】 当时你要是把球传给我，这场球就不至于输了！（あの時もしあなたが私に送球してくれていたなら、この試合は負けなかったのに）
- 【23】 他们把义演的收入全部捐献给了灾民。（彼らはチャリティーショーの収益を全部被災者に寄付した）
- 【24】 最近他把一件祖传的珍贵文物捐赠给了博物馆。（最近彼は祖先伝来の貴重文物を博物館に寄贈した）
- 【25】 他们把捕获的几十万斤鱼全部卖给了国家。（彼らは捕獲した数十万斤の魚を全部国家に売った）
- 【26】 我让他从楼上把钥匙扔给我，他却把钢笔扔给我了。（私は彼に2階から鍵をほうり投げてくれと言ったのに、彼はペンをほうり投げてよこした）
- 【27】 他把自己的血输给了一个危重病人。（彼は自分の血を重病の人に輸血した）
- 【28】 他已经把我那篇文章推荐给报社了。（彼はすでに私の書いたあの文章を新聞社に推薦してくれた）
- 【29】 他把自己刚出版的一本短篇小说集赠给了他的朋友。（彼は出版したばかりの短編小説集を友人にプレゼントした）
- 【30】 会议决定尽快将这份文件印发给全国各有关部门。（会議はできるだけ急いでこの文書を全国の各関係部門に印刷して配ると決定した）
- 【31】 他把妈妈带来的点心都分给大家吃了。（彼は母親が持って来たお菓子をすべてみんなに分け与えて食べさせた）
- 【32】 请您把那本书拿给我看看。（その本を取って私に見せて下さい）
- 【33】 你把我刚买来的新疆哈密瓜切给大家尝尝，看看这瓜怎么样？
（今買って来た新疆のハミ瓜を切ってみんなに食べてもらい、おいしいかどうか見てもらいましょう）

【34】 他们把多余的房子让我们住了。(彼らは使っていない部屋を私たちに譲って住まわせてくれた)

上挙24例における「動詞＋“給”」は、すべて間接賓語は取っているが、直接賓語にあたる語は別の位置に置かれている。形式的に見ると上の24例は次の4通りに分類される。

- I 直接賓語にあたる語が、「動詞＋“給”＋間接賓語＋“的”」という定語（連体修飾語）構造の被修飾語となっているもの（【11】～【14】）
- II 直接賓語にあたる語が、「“是”——“的”」という構造からなる述語の主語となっているもの（【15】～【18】）
- III 直接賓語にあたる語が、そのままの形で文の話題として文頭に置かれているもの（【19】～【21】）
- IV 直接賓語にあたる語が、介詞“把”または“将”に導かれて「動詞＋“給”」の前に提前されているもの（いわゆる“把”字句）（【22】～【34】）

この節の始めで、【11】～【34】の「動詞＋“給”」は二重賓語を取ることができる¹⁾と述べたが、以下でそのことについて考察してゆく。

Iの“带给”“寄给”“借给”“写给”は次のように二重賓語を取ることができる。

〔35〕 带给我家乡特产（私に郷里の特産品を持って来る）

〔36〕 寄给你信（あなたに手紙を送る）

〔37〕 借给我一本书（私に本を1冊貸す）

〔38〕 写给我一封信（私に手紙を1通書いて送って来る）

【13】【14】の“那本书”“那封信”を、〔37〕〔38〕でそれぞれ“一本书”“一封信”としたのは次のような理由による。

一般に、中国語では既知、「有定」の直接賓語は文頭に置かれる傾向がある²⁾。例えば、

〔39〕 我给你这本书。（私はあなたにこの本をあげる）

の“这本书”は既知、「有定」の直接賓語であるが、〔39〕は往々にして、

〔40〕 这本书，我给你。（この本，私はあなたにあげる）

のように表現される。既知、「有定」の直接賓語は話題として文頭に置いた方が文としてのすわりがいいのである。そしてこの傾向は述語の構造が複雑な場合（例えば本稿の「動詞+“給”」）ほど高い。〔37〕〔38〕を、

〔37〕？借给我那本书

〔38〕？写给我那封信

とすると不自然な表現になるのは、“那本书”“那封信”が既知、「有定」のものだからである。【11】【12】の“家乡特产”“信”も「私に持って来た郷里の特産品」「あなたに送った手紙」であるから既知、「有定」のものであるが、“这”（この）“那（あの）”といった指示語が付いていないために、〔35〕〔36〕は成立している。〔35〕〔36〕の“家乡特产”“信”はもちろん未知、「無定」のものである。

以上のことをふまえて前節1で扱った例文【1】～【9】を見なおしてみると、それらの文における直接賓語はすべて未知、「無定」のものである。

Ⅱの“交给”“转交给”“留给”“批给”も次のように二重賓語を取ることができる。

〔41〕 交给你一个书包（あなたにカバンを1つ渡す）

〔42〕 转交给你一本书（人に代わってあなたに本を1冊届ける）

〔43〕 留给你几个苹果（あなたにりんごをいくつか残しておく）

〔44〕 批给我们一千元（私たちに1000元のお金を〔国家などが〕許可して与える）

Ⅲの【19】～【21】では直接賓語にあたる語が文の話題として文頭に置かれているが、その理由はすでに述べたように、直接賓語にあたる語が既知、「有定」のものだからである。従って、これらの語を未知、「無定」のものにすれば【19】～【21】の“补给”“奉献给”“还给”も二重賓語を取ることができるようになる⁶⁾。

〔45〕 补给你一块钱(あなたに1元追加支給する)

〔46〕 奉献给首都的广大观众一部大型歌剧(首都の大観衆に長編オペラを捧げる)

〔47〕 还给你一本书(あなたに本を1冊返す)

Ⅳの【22】～【34】はいわゆる“把”字句で、直接賓語にあたる語が介詞“把”または“将”に導かれて「動詞＋“給”」の前に提前されているが、介詞“把”“将”は既知、「有定」の語〔句〕しか導かない。【22】の“球”，【24】の“一件祖传的珍贵文物”，【26】の“钥匙”“钢笔”は表面上は未知、「無定」のもののように見えるが、文脈の中ではすべて既知、「有定」のものである。これらの語を未知、「無定」のものにすれば、【22】～【34】の「動詞＋“給”」も以下のように二重賓語を取ることができるようになる。

〔48〕 传给我一个球(私にボールをパスする)

〔49〕 捐献给灾民一笔钱(被災者にお金を寄付する)

〔50〕 捐赠给博物馆一件文物(博物館に文物を1つ寄贈する)

〔51〕 卖给国家很多鱼(国家に多くの魚を売る)

〔52〕 扔给我一把钥匙(私に鍵を1つほうり投げる)

〔53〕 输给病人二百cc的血(病人に200ccの輸血をする)

〔54〕 推荐给报社一篇文章(新聞社に文章を1つ推薦する)

〔55〕 赠给朋友一本小说(友人に小説を1冊プレゼントする)

〔56〕 印发给全国各有关部门一份文件(全国の各関係部門に文書を印刷して配る)

〔57〕 分给大家点心(みんなにお菓子を分けてあげる)

〔58〕 拿给我一本书(私に本を1冊取ってくれる)

〔59〕 切给你一半〔哈密瓜〕⁹⁾(あなたにハミ瓜を半分に切ってあげる)

〔60〕 让我们一间房子(私たちに部屋を1つ譲ってくれる)

以上見てきたように、【11】～【34】中の「動詞＋“給”」はすべて二重賓語を取ることができる。また“給”は「与える」という本来の意味を

持っていて、「動詞」で表わされている動作行為の結果、直接賓語で表わされている物は、間接賓語で表わされている人または機関に「授与」される。従って、これらの「動詞+ “給”」も「動詞+動詞」という語構成からなる1つの複合動詞と見なすのがよい。

3 動詞+介詞——(1)

【61】 我把我的朋友介绍给了她，她们很快地成了好朋友。(私は私の友人を彼女に紹介したが、2人はあっという間に仲良しになった)

【62】 妻子一气之下回了娘家，把所有的家务都丢给了丈夫。(妻は怒りの余り実家へ帰ってしまい、家事をすべて夫に投げ出した)

【63】 丈夫一心扑在工作上，把所有的家务都推给了妻子。(夫は仕事にかかりきりで、家事をすべて妻に押しつけた)

【64】 有些父母总喜欢把自己的意见强加给儿女们。(ある親は自分の意見を子供たちに押しつけることばかりを好む)

【65】 他把自己的一生贡献给了他所热爱的教育事业。(彼は自分の一生を彼の熱愛する教育事業に捧げた)

【66】 他把毕生的精力都献给了医学事业。(彼は畢生の力をすべて医学事業に捧げた)

上挙6例はすべて、前節2の【22】～【34】と同じように“把”字句の構造になっている。しかし、この6例と【22】～【34】には違いがある。先にも述べたように“把”によって導かれる語は既知、「有定」のものでなければならない。【22】～【34】では、“把”によって導かれている語を未知、「無定」のものにすれば、その語を「動詞+ “給” +間接賓語」の後ろに置いて直接賓語とすることができた。もう1度その例を2つ挙げる。

【48】 传给我一个球(私にボールをパスする)

〔49〕 捐献给灾民一笔钱（被災者にお金を寄付する）

しかし、上挙6例ではそれが不可能である。

【61】 * 介绍给她一个朋友

【62】 * 丢给丈夫一个杂事

【63】 * 推给妻子一个杂事

【64】 * 强加给儿女们一个意见

【65】 * 贡献给教育事业一些力量

【66】 * 献给医学事业一些力量

このように、【61】～【66】の「動詞＋“給”」は二重賓語を取ることができない。しかし、“把”によって導かれている語は「動詞＋“給”」中の「動詞」の直接賓語とすることができる。

【61】 介绍我的朋友（私の友人を紹介する）

【62】 丢所有的家务（すべての家事を投げ出す）

【63】 推所有的家务（すべての家事を押しつける）

【64】 强加自己的意见（自分の意見を押しつける）

【65】 贡献自己的一生（自分の一生を捧げる）

【66】 献毕生的精力（畢生の力を捧げる）

以上のことから、“把”によって導かれている語は、【22】～【34】では「動詞＋“給”」の直接賓語であり、【61】～【66】では「動詞」の直接賓語であることがわかる。

結局、【61】～【66】の「動詞＋“給”」は間接賓語しか取れないことになるが、その原因は“給”の動詞性の虚化によるものと思われる。「与える」という本来の意味も認めがたい。例えば、【61】で“介绍”という動作行為の結果、“我的朋友”が“她”に「授与」されるとは考えにくいし、また【62】でも“丢”という動作行為の結果、“所有的家务”が“丈夫”に「授与」されるとは考えにくい。

上例【61】【62】と次の〔67〕〔68〕を比較してみよう。

〔67〕 我介绍给学校一个英语教师。（私は学校に英語の教師を1人紹

介した)

〔68〕 他丢给小白兔白菜叶。(彼は小うさぎに白菜の葉を投げ与えた)

【61】【62】で二重賓語を取ることのできなかつた“介绍給”“丢給”が〔67〕〔68〕では二重賓語を取っている。〔67〕〔68〕の“給”は「与える」という本来の意味も持っている。〔67〕では“介绍”という動作行為の結果、“一个英语教师”が“学校”に「授与」されている。この“一个英语教师”は“学校”に所属することになるからである。また、〔68〕でも“丢”という動作行為の結果、“白菜叶”は“小兔”に「授与」されている。〔67〕〔68〕における“介绍給”“丢給”は「動詞+動詞」という語構成からなる1つの複合動詞である。“給”に動詞性が残っているかどうかは、このように語と語の間の意味関係にも左右される。

さらに、前節2に挙げた例文【20】【23】及び下の〔69〕を、上挙【65】【66】と比較してみよう。

【20】 这部大型歌剧五月底彩排，六月初将奉献给首都的广大观众。

(この長編オペラは5月末にラストリハーサルが行なわれ、6月初めに首都の大観衆に捧げられるであろう)

【23】 他们把义演的收入全部捐献给了灾民。(彼らはチャリティショーの収益を全部被災者に寄付した)

〔69〕 我献给他一朵花。(私は彼に花を捧げた)

【20】の“奉献给”，【23】の“捐献给”はそれぞれ、

【20】 奉献给首都的广大观众一部大型歌剧

【23】 捐献给灾民一笔钱

のように二重賓語を取ることができた。〔69〕の“献给”も二重賓語を取っている。“奉献”“捐献”“贡献”“献”はすべて同じような意味を持つ語に見えるが，“奉献”“捐献”は金品を捧げる場合，“贡献”は力量や生命を捧げる場合に用いられることが多い。そして“献”は“贡献”にやや近いが、金品を捧げる場合にも用いられる。【20】では“奉献”という動作行為の結果、“一部大型歌剧”が“首都的广大观众”に「授与」され、

【23】では“捐献”という動作行為の結果，“一笔钱”が“灾民”に「授与」され、そして〔69〕では“献”という動作行為の結果，“一朵花”が“他”に「授与」される——つまり，“给”に「与える」という意味がある——と考えることができるが，【65】【66】では無理である。“自己的一生”“毕生的精力”が“一部大型歌剧”“一笔钱”“一朵花”のような具体的な物ではないからである。これは【61】～【66】すべてについて言えることである。

従って，【61】～【66】の“给”はその直前の「動詞」の方向を示しているだけと考えた方がよい。この場合の“给”は「与える」という意味の動詞ではなく、「——に」という意味の介詞である。しかし，これらの「動詞＋“给”」には，間接賓語を取ることができる，動詞接尾語の“了”を付加することができるといった動詞性がある。上挙6例中，【64】以外の「動詞＋“给”」には“了”が付加されている。以上のことから考えて，これらの「動詞＋“给”」は「動詞＋介詞」からなる1つの複合動詞と見なすのが妥当であろう。

4 動詞＋介詞——(2)

【70】 他们为了逃避罚款,把造成这一带水源污染的责任转嫁给我们厂。

(彼らは罰金を逃れるために，この一帯に水源汚染をもたらせた責任を私たちの工場に転嫁した)

【71】 你的病如果不及时治疗,将会传染给孩子的。(あなたの病気はもし治療が遅ればきっと子供にうつりますよ)

【72】 两年前,她嫁给了一位工程师。(2年前,彼女はあるエンジニアのもとに嫁いだ)

【73】 他曾经四次获得过这个项目的冠军,但今年却败给了一位年轻的队友。(彼はかつて4度この種目で優勝したことがあるが,今年

は若手のチームメイトに敗れた)

【70】において介詞“把”で導かれている語“責任”は“造成这一带水源污染的”という定語の修飾を受けることによって、既知、「有定」のものとなっているが、この“責任”を例えば“一些責任”のように未知、「無定」のものにしても、“转嫁给我们厂”という「動詞+“給”+間接賓語」構造の後ろに置くことはできない。

〔74〕* 转嫁给我们厂一些责任

もともと、この“转嫁”という動詞は、“責任”という語を直接賓語として取ることはできないのである⁶⁴。

〔75〕* “转嫁责任

従って、“转嫁”“责任”という語を用いて「責任を〔誰々または何々〕に転嫁する」と言う場合には【70】のように“把责任转嫁给——”という表現にせざるをえない。この場合、“转嫁给”の後ろに間接賓語を置くことはできる。この“给”は“转嫁”という動作行為の方向を示しているだけである。従って“转嫁给”は「動詞+介詞」という語構成からなる複合動詞と考えるのがよい。

【71】の“传染给”，【72】の“嫁给”はそれぞれ「〔誰々〕に伝染する」「〔誰々〕に嫁ぐ」という意味で使われている。“传染”には「伝染する，うつる」という不及物動詞（自動詞）の意味と「伝染させる，うつす」という及物動詞（他動詞）の意味が、また“嫁”には「嫁ぐ」という不及物動詞の意味と「嫁がせる」という及物動詞の意味がある。【71】【72】における“传染”“嫁”は不及物動詞であるから直接賓語を取ることはできない。そして“给”は“传染”“嫁”という不及物動詞の方向を示しているだけである。従って、これらも「動詞+介詞」という語構成からなる複合動詞と考えるのがよい。

しかし、“传染”“嫁”が及物動詞として使われている場合には、“传染给”“嫁给”は二重賓語を取ることができる。

〔76〕 我传染给他肝炎。(私は彼に肝炎をうつした)

〔77〕 我嫁给他一个女儿。(私は彼に娘の1人を嫁がせた)

この場合の“传染给”“嫁给”は本稿1, 2で扱った「動詞+“给”」と同様、「動詞+動詞」という語構成からなる複合動詞と考えるべきである。

【73】は“败给”の例であるが，“败”にも「敗れる」という不及物動詞の意味と「敗る」という及物動詞の意味がある。

〔78〕 敌军败了。(敵軍が敗れた)

〔79〕 人民军大败侵略军。(人民軍は侵略軍を大いに敗った)

〔78〕の“败”は「敗れる」という意味の不及物動詞であるが、〔79〕の“败”は「敗る」という意味の及物動詞で“侵略军”はその直接賓語となっている。しかし、【73】の“败给”には「〔誰々〕に敗れる」という不及物動詞の意味しかなく、この点では“传染给”“嫁给”と性質を異にする。先に見たように“传染给”“嫁给”は不及物動詞、及物動詞の2通りに使うことができた。

古代漢語には「動詞+“于”」で受身を表わす用法があった。“于”の品詞は介詞である。

〔80〕 然而兵破于陈涉，地夺于刘氏者，何也？(然れども兵陳涉に破られ，地劉氏に奪はるるは，何ぞや《漢書・賈山列伝》)

〔81〕 劳心者治人，劳力者治于人。(心を勞する者は人を治め，力を勞する者は人に治めらる《孟子・滕文公上》)

〔80〕の“破于”“夺于”はそれぞれ「〔誰々〕に破られる」「〔誰々〕に奪われる」という意味である。“破”(破る)“夺”(奪う)は本来、及物動詞であるから“破兵”(兵を破る)“夺地”(地を奪う)のように直接賓語を取ることができるが、〔80〕では“兵”“地”が主語となっている。そして、“破”“夺”に介詞“于”が付くことによって受身を表わしているのであるが、“破于”“夺于”はもういかなる直接賓語を取ることもしかない。従って、“破于”“夺于”は“破”“夺”という及物動詞が不及物動詞化したものと言える。“于”の後ろの成分は間接賓語である。また、〔81〕では“治

人”“治于人”と対比的に使われているが、前者の“治”（治める）は及物動詞で直接賓語“人”を取り、後者の“治于”は不及物動詞化しており間接賓語“人”を取っている。

次の〔82〕は現代中国語において「動詞+“于”」が受身を表わしている例である。

〔82〕 中国队败于美国队。(中国チームはアメリカチームに敗れた)
介詞“于”は書面語で、〔82〕の“败于”は口語では“败给”に取って代わられる。

〔83〕 中国队败给美国队。(〔82〕と同じ)

〔83〕の“败给”は“败于”と同じく不及物動詞として使われているので、いかなる直接賓語を取ることもできない。従って、【73】〔83〕の“败给”は「動詞+介詞」という語構成からなる複合動詞と考えるのが妥当である。

“败给”とほぼ同じ意味を持つ語に“输给”がある⁶⁰。次の2例はほぼ同義である。

〔84〕 我们队败给美国队。(私たちのチームはアメリカチームに敗れた)

〔85〕 我们队输给美国队。(同上)

先にも述べたように〔84〕の“败给”はいかなる直接賓語を取ることもできないが、〔85〕の“输给”は次のように直接賓語を取ることができる。

〔86〕 我们队输给美国队两分。(私たちのチームはアメリカチームに2点差で敗れた)

〔87〕 我们队输给美国队两个球。(私たちのチームはアメリカチームに2ボール差で敗れた)

〔88〕 * 我们队败给美国队两分。

〔89〕 * 我们队败给美国队两个球。

上例を見ればわかるように、“输给”は間接賓語(“美国队”)と直接賓語(“两分”“两个球”)を取ることができる。また“给”には「与える」

という意味もあり、[86] [87] では“輸”という動作行為の結果，“两分”“两个球”が“美国队”に「授与」されている。“两分”“两个球”といった得点やボール〔差による得点〕が「授与」されるというのは理解しがたいかもしれないが、次の例を見れば、まとめて「授与」と見なした方がよいことがわかるであろう。

【90】 我输给他钱。(私は彼に〔競技や賭け事で〕負けてお金をやった)

従って，“输给”は“败给”とは異なり、「動詞＋動詞」という語構成からなる複合動詞と見なすべきである。

5 動詞／介詞

【91】 孩子每天晚上都把在幼儿园学的儿歌背给妈妈听。(子供は毎晩、幼稚園で習った童謡を暗唱して歌いお母さんに聞かせた)

【92】 我把爸爸的来信念给奶奶听，她高兴极了。(私が父からの手紙を読んでおばあさんに聞かせると、おばあさんはとても喜んだ)

【93】 见我进来，她故意提高了声音，我想她是说给我听的。(私がはいって来たのを見て、彼女はわざと声を高くした、私は彼女が私に聞かせようとしているのだと思った)

【94】 这个人很虚伪，干什么事都好象做给别人看的。(この人は偽善的な人で、何をする場合も人に見せようとしてやっているようだ)

上例【91】～【94】の共通点は、述部に「動詞＋“给”＋人を表わす語＋動詞」という構造が含まれていることである。「人を表わす語」は一見すると「動詞＋“给”」の間接賓語であるかのように——例えば「背给妈妈」で「お母さんに暗唱して歌ってあげる」、「念给奶奶」で「おばあさんに読んであげる」という意味になっているかのように——思われるが、

「動詞+“給”+人を表わす語」だけでは文としても句としても成立しない。

- 【91】 * 背给妈妈
- 【92】 * 念给奶奶
- 【93】 * 说给我
- 【94】 * 做给别人

また、その後ろにいかなる直接賓語を置くこともできない。

以上のことから、これらの「動詞+“給”」が1つの動詞としての機能を全く備えていないことがわかる。実は、これらの「動詞+“給”」はこれまで見てきた「動詞+“給”」とは構造が全く異なり、

動詞+“給”+人を表わす語+動詞→動詞/“給”+人を表わす語+動詞

背给妈妈听→背/给妈妈听(暗唱してお母さんに聞かせる)

念给奶奶听→念/给奶奶听(読んでおばあさんに聞かせる)

说给我听→说/给我听(話して私に聞かせる)

做给别人看→做/给别人看(〔何かを〕して人に見せる)

とI C分析すべきものなのである。このことは下の例文のように“背”“念”など前の「動詞」の後ろに賓語を置くことができることからわかる。つまり、前の「動詞」と“給”はそれぞれ完全に独立した1語であり、この場合の“給”は典型的な介詞である。

〔95〕 背一首诗给妈妈听(詩を暗唱してお母さんに聞かせる)

〔96〕 念一封信给奶奶听(手紙を読んでおばあさんに聞かせる)

〔97〕 说一个笑话给我听(笑い話をして私に聞かせる)

〔98〕 做实验给别人看(実験をして人に見せる)

これらはいわゆる連動式の文である。

ここで【91】～【94】と下の例文を比較してみよう。

〔99〕 他把手里的白菜叶丢给小兔吃。(彼は手に持っていた白菜の葉を小うさぎに投げ与えて食べさせた)

〔99〕の述部にも「動詞＋“給”＋人を表わす語（ただし、この場合は「人」のかわりに“小兔”という動物が使われている）＋動詞」という構成が含まれている。しかし〔99〕の“丢给”は「動詞＋動詞」という語構成からなる1つの複合動詞である。なぜなら〔99〕の“丢给小兔吃”は【91】～【94】とは違い、後ろの「動詞」を省略することができる。

〔100〕 丢给小兔(小うさぎに投げ与える)

また、〔100〕の後ろには未知、「無定」の直接賓語を置くことができる。

〔101〕 丢给小兔白菜叶(小うさぎに白菜の葉を投げ与える)

さらに〔101〕に先ほど省略した「動詞」“吃”を加えるならば、“小兔”の後ろではなく、“白菜叶”の後ろである。

〔102〕 丢给小兔白菜叶吃(小うさぎに白菜の葉を投げ与えて食べさせる)

〔103〕 *丢给小兔吃白菜叶

〔102〕のI C分析は次のようになる。

丢给小兔白菜叶吃→丢给小兔白菜叶/吃

従って、〔99〕の“丢给小兔吃”のI C分析も、

丢给小兔吃→丢给小兔/吃

*丢给小兔吃→丢/给小兔吃

となる。〔99〕は【91】～【94】とは構造的に異なるのである。

実は、本稿の2で扱った例文にも〔99〕と同じ構造を持つものがいくつかあった。【17】【18】及び【31】～【34】である。6つの例文の全体を再び挙げると煩雑になるので、それぞれの例文の問題箇所だけを以下に挙げる。

【17】 留给你吃(あなたに残しておいて食べさせる)

【18】 批给我们扩建厂房用(私たちに許可して与え工場拡張のために使わせる)

【31】 分给大家吃(みんなに分け与えて食べさせる)

【32】 拿给我看看(私にとって見せる)

【33】 切给你尝尝⁴⁴ (あなたに切って食べさせる)

【34】 让我们住 (私たちに譲って住ませる)

これらの後ろの「動詞」は省略することができる。

【17】 留给你 (あなたに残しておく)

【18】 批给我们 (私たちに許可して与える)

【31】 分给大家 (みんなに分けてあげる)

【32】 拿给我 (私に取ってくれる)

【33】 切给你 (あなたに切ってあげる)

【34】 让我们 (私たちに譲ってくれる)

この後ろには直接賓語を置くことができる。つまり、これらの「動詞+“給”」は二重賓語を取ることができるのである。

【17】 留给你几个苹果 (あなたにりんごをいくつか残しておく)

【18】 批给我们一千元 (私たちに1000元のお金を許可して与える)

【31】 分给大家点心 (みんなにお菓子を分けてあげる)

【32】 拿给我一本书 (私に本を1冊取ってくれる)

【33】 切给你一半 (あなたに半分切ってあげる)

【34】 让我们一间房子 (私たちに部屋を1つ譲ってくれる)

さらにこの後ろに、先ほど省略した「動詞」を付けることができる。

【17】” 留给你几个苹果吃 (あなたにりんごをいくつか残しておいて食べさせる)

【18】” 批给我们一千元扩建厂房用 (私たちに1000元のお金を許可して与え工場拡張のために使わせる)

【31】” 分给大家点心吃 (みんなにお菓子を分け与えて食べさせる)

【32】” 拿给我一本书看看 (私に本を1冊取って見せてくれる)

【33】” 切给你一半尝尝 (あなたに半分切って食べさせる)

【34】” 让我们一间房子住 (私たちに部屋を1つ譲って住ませてくれる)

従って、【17】【18】及び【31】～【34】のIC分析は〔99〕と同じよう

に、

留给你吃→留给你／吃

批给我们扩建厂房用→批给我们／扩建厂房用

分给大家吃→分给大家／吃

拿给我看看→拿给我／看看

切给你尝尝→切给你／尝尝

让我们住→让我们／住

となる。

6 まとめ

以上、現代中国語における「動詞＋“給”」を、

- (i) 「動詞＋動詞」という語構成からなる1つの複合動詞
- (ii) 「動詞＋介詞」という語構成からなる1つの複合動詞
- (iii) 動詞／介詞と分析すべき2語

の3つのパターンに分けて考察してきた。

今まで全く触れなかったが、《汉语动词—结果补语搭配词典》はその書名からして言うまでもなく、これらの「動詞＋“給”」を「動詞＋結果補語」構造として扱っているのである。これと似た扱いをしているものに刘月华、潘文娱、故辀 1983がある。刘等は「“給”＋名詞」が動詞の前に置かれる場合と動詞の後ろに置かれる場合とに分け、前者を状語（連用修飾語）、後者を結果補語としている⁸⁹。例えば、

〔104〕 我给姐姐写了一封信。（私は姉に手紙を1通書いた）

〔105〕 老师交给我一把钥匙。（先生は私に鍵を1つ渡した）

において〔104〕の“給姐姐”は状語、〔105〕の“给我”は結果補語といった具合である。〔104〕の“給姐姐”が動詞“写”の状語であるという点に関しては筆者も異論はない。この場合の“給”は介詞であり、これが

介詞の最も基本的な用法である。

〔105〕の“交给[我]”は本稿の(i)にあたるが、刘等は本稿の(ii)をどのように扱うのであろうか。刘等が考察の対象としているのは(i)の例だけである。(i)(ii)を——(iii)も含めて——「動詞+結果補語」として扱っているのが《汉语动词—结果补语搭配词典》であるが、本稿では、「動詞+“给”」が二重賓語を取るかどうか、“给”に「授与」の意味があるかどうかという2点から(i)(ii)のように分類した。(iii)は最後の節5で検討したように、いわゆる連動式として扱うべきもので、絶対に「動詞+結果補語」構造として扱うことはできない。これは《汉语动词—结果补语搭配词典》のミスであろう。

注

- (1) 王砚农, 焦群, 庞颢 1987。
- (2) 【 】は《汉语动词—结果补语搭配词典》中の例文を示す。
- (3) 厳密に言えば、この“辦”は「——を割る」の意味ではなく、「——に割る」、つまり“辦成”の意味である。
- (4) 厳密に言えば、この“換”も「——を交換する」の意味ではなく、「——に交換する」、つまり“换成”の意味である。
- (5) 徐枢1985, 70頁に、

给	他	两	本	书
述	宾	述	宾	宾
述	宾			

という分析がある。

- (6) 朱德熙1982, 170頁に“送给他/一件毛衣”とある。
- (7) 間接賓語は、既知、「有定」のものであっても提前されにくいようである。例えば、“我给他一本书”の“他”は既知、「有定」のものであるが、“?他, 我给一本书”は不自然である。
- (8) 《汉语动词—结果补语搭配词典》では“补给”の例文として【19】を挙げてい

るが、【19】には“补发给”という「動詞+“给”」も含まれている。“补发给”は“补给”とほぼ同義であり，“补发给你一块钱”のように二重賓語を取ることができる。

- (9) “*切给大家一个哈密瓜”は不成立である。“切一个哈密瓜”は「“一个哈密瓜”（1つのハミ瓜）をいくつかに切る」という意味だが、いくつかに切ってしまうと“一个哈密瓜”は存在しなくなり、それを“大家”に与えることができなくなるからである。ここでは、「半分に切って、[その半分を]あなたに与える」という意味の例文にした。
- (10) “推卸责任”は可能である。
- (11) この“输”は【27】の“输”（運ぶ，輸血する）と同義ではなく、「負ける，敗れる」の意味である。
- (12) 注(9)参照。
- (13) 刘等1983, 394—398頁。

参考文献

- 王砚农，焦群，庞颢1987《汉语动词—结果补语搭配词典》，北京语言学院出版社。
- 徐枢1985《宾语和补语》，黑龙江人民出版社。
- 朱德熙1982《语法讲义》，商务印书馆。
- 刘月华，潘文娉，故骅1983《实用现代汉语语法》，外语教学与研究出版社。
- 朱德熙1979〈与动词“给”相关的句法问题〉（《现代汉语语法研究》，商务印书馆1980による）。
- 朱德熙1983〈包含动词“给”的复杂句式〉，《中国语文》1983年第3期，中国社会科学出版社。
- 吕叔湘1987〈说“胜”和“败”〉，《中国语文》1987第1期，中国社会科学出版社。
- 胡竹安1960〈“给”的词性和双宾语问题〉，《中国语文》1960年第5期，人民教育出版社。